

にぎわい

東北版

～ 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信 ～

平成15年10月1日発行

Vol. 64

会員だより

【青森県鰺ヶ沢町】

ふじ丸による日本海クルーズ

青森県の日本海側に位置する七里長浜港を出港し、北前船交易で繁栄した海商のまち・富山へ立ち寄り青森港に帰港する、大型客船「ふじ丸」による船旅「神秘の富山クルーズ」が9月6日（土）～8日（月）の2泊3日で実施されました。

このクルーズは、七里長浜港利用促進協議会（会長：金澤隆弘前市長）の協力により実施されたもので、同港を出港するクルーズは平成10年度から今年度まで継続して行われ、これで6回目となりました。

クルーズ初日は、低気圧の影響であいにくの空模様となりましたが、翌日の寄港地である富山新港に到着すると同時に天候も回復し、下船後は参加者総勢228名のうち、一部自由行動の方を除き、世界遺産白川郷コースと黒部アルペンルートコースのオプションツアーに参加しました。

現地では、歴史を感じさせる白川郷の町並みや立山連峰の大自然のパノラマをそれぞれ目の当たりにし、ツアーの行程を終えて船に帰ってきた参加者の表情は皆満足げで、船内でも笑顔でお互いに感想を述べ合っていました。

また、船内では3日間を通して様々なイベントが目白押しであったことに加えて、船旅の楽しみの一つである料理についても、ふじ丸のシェフが腕をふるったディナーやランチに舌鼓を打ち、参加者が大喜びの充実したクルーズとなりました。

参加者からは、「次はいつあるの」「また参加したい」との声が数多く寄せられました。



8月に供用開始した東北初の旅客船専用バース

（青森港新中央ふ頭）に入港したふじ丸



世界遺産白川郷合掌流り集落



津波町八日町通り

ライオン海道開通



平成 15年 9月 27日 (土)午後 1時、小泊村折戸地区と下前地区を結ぶ全長 1,935mの「ライオン海道」が開通いたしました。

小泊村は青森県内でも第2位の水揚げを誇る漁港を有していますが、これまで折戸地区から下前地区へとつながる道路は1本しかなく、また、狭くて急勾配、急カーブの難所でした。このため、特に冬季は漁業関係の保冷車やバスなど大型車両のみならず、一般車両にとっても長年「厳しい道」でした。

しかし、今回の「ライオン海道」の開通は、小泊村の漁業関係者のみならず、観光関係者にとっても明るいニュースとなりました。

下前地区には断崖絶壁の奇勝が見るものを圧倒する日本二大名岬の一つ、権現崎があり、ここには今から約 2,200年前、秦の始皇帝の命により、不老不死の薬草を求めた「徐福」という人物が、3,000人の童を従えて権現崎に流れ着き、農業や漁業の技術を伝えたとされる「徐福伝説」が伝えられております。現在権現崎のふもとには徐福像が建立され、小泊村の観光の目玉となっております。

今回の「ライオン海道」の開通は権現崎へのアクセスを容易にし、下前地区への四季を通じての誘客が可能となったのです。

さて、ライオン海道を折戸地区から下前地区へと歩いてみましょう。少し歩いていくと橋長 73.4 mの1号橋「ライオンゲートブリッジ」へとたどり着きます。この橋げたの両端に施されたライオンの像が、下前地区を訪れる皆さんを出迎えてくれます。この橋を超えると「ライオン海道」のシンボルであるライオン岩が見えてきます。ライオン岩はその名のとおり、ライオンがうつぶせに座っているように見え、江戸時代ごろには下前地区の住民に獅子岩と呼ばれ、親しまれてきました。



第2号橋の「ライオンベイブリッジ」は橋長 520mあり、ライオン岩をまたくようにして橋が建設されました。ライオン岩すぐ近くのバルコニーには有翼のスフィンクスが設置されており、全長 4.1m、顔が人間、胴体がライオンで背中に驚の翼を持っています。地上で最も賢い人間、最も強いライオン、空高く羽ばたく驚のパーツを持ち、地上最強の生物であることを表すこのモニュメントは、小泊村に住む人々の進取に富む気性が表されており、橋に取り付けられた8体のライオンの像とともに、小泊村を守っているのです。

また、この橋からは権現崎に沈む美しい夕日や、海に浮かぶ三角錐の津軽富士(岩木山)を望むことができます。

この橋を超えるとライオン海道の終点となりますが、さらに道なりに進んでいくと道路の突き当たりで徐福像がはるかなる故郷、中国を見据えています。

このライオン海道は小泊村民にとって、未来へと続く希望の橋であり、小泊村の漁業・観光産業のさらなる発展に寄与することを願っております。



【秋田県秋田市】

秋田港海の祭典で「秋田港貿易フェア」を開催！

毎年7月の最終土、日曜日に行われている秋田港海の祭典が、今年も7月26日(土)、27日(日)の2日間、秋田港本港地区にあるポートタワー「セリオン」前イベント広場を中心に開催されました。

この2日間は、例年、広場は納涼ショーや屋台村、各種出店コーナー、ビア・ガーデンなどでにぎわい、隣接する埠頭では海上保安部巡視船や海洋技術高校実習船の一般公開や体験航海が行われるほか、夜には、対岸や海上から打ち上げる花火大会で盛り上がるなど、秋田港の夏の風物詩として、広く市民に定着したイベントとなっています。

陸揚げしたばかりのコンテナから商品を取り出して直売



今年、この海の祭典とタイアップして、本市と秋田市貿易関連産業連絡協議会、ジェトロ秋田、秋田港海の祭典実行委員会の共催で「秋田港貿易フェア」を初めて開催しました。

フェアは、貿易港としての秋田港を広くPRするとともに、輸入促進を図ることを目的にしたものです。会場には当日、陸揚げして手続きを終えたばかりの20フィートコンテナ1本を配置し、コンテナ前に設置したテント4張りに、参加輸入業者8社が中国製ガーデニング用品や竹炭製品、自転車、雑貨、韓国製食器、ベトナム製ガーデニング製品、セイロンティー、スリランカ製雑貨など、多彩な輸入商品をコンテナから取り出して所狭しと陳列し、直接販売しました。中には中国製電動三輪車といったユニークな商品もあり、セールス走行をする度に注目の的でしたが、お手頃な値段のガーデニング用品が

一番の売れ筋で、2日目の夕方には売り切れとなるほどでした。

今年も、フェアの他、地産地消コーナーなど新たなイベントが加わったことや、天候に恵まれたこと、臨港道路の改良により会場へのアクセスが向上したなどにより、前年を2万人ほど上回る約5万人(主催者発表)の集客があり、盛況のうちに閉幕となりました。

来年は秋田市が建都400年という節目を迎えることから、記念イベントの計画もあり、今から来年の夏が待ち遠しいところです。

賛同業者が多彩な輸入商品を所狭しと陳列



2日目はあきた観光レディーと男鹿のなまはげも登場！



【山形県酒田市】

湊町酒田の新しい観光スポット

「さかた海鮮市場」が酒田本港地区にオープン！！

5月17日に酒田本港地区にさかた海鮮市場（いちば）がオープンしました。

さかた海鮮市場は、港を中心とした親水空間の魅力の向上と中心市街地の活性化を図ることを目的に整備したものです。

1階は、庄内浜から水揚げされた近海物中心の新鮮な魚介類を中心に常時50種類ほど取り揃える鮮魚店と当日収穫したばかりの野菜、果物、花などを直売する「海の八百屋」、2階は、酒田港と鳥海山を眺めながら食事のできる海鮮ファーストフード店となっています。



オープン当日は、テープカットと同時にお客様であふれ、2階の海鮮ファーストフード店はあっという間に長蛇の列ができました。また、オープニングイベントは、小鳩保育園と若草幼稚園の歌と踊り、港南小学校の金管バンドの演奏、東北公益文科大学のアカペラグループ、酒田発のアイドルグループS・H・I・Pのミニコンサート、加茂水産高校の実習船「鳥海丸」の船内公開、海洋深層水そばの試食や海洋深層水を利用した商品の販売などを行い、2日間で約2万人の人で賑わいました。

来館者は、8月までに約25万人の方からお出でいただいています。

さかた海鮮市場に隣接して、酒田港と県内唯一の離島である飛島を結ぶ「ニューとびしま」の発着所、酒田本港地区を一望できる展望台がある酒田海洋センターがあり、また、周辺には、往時の湊町文化を今に伝える山居倉庫、日和山公園、旧鑑屋、本間家旧本邸、相馬樓などの歴史資産が点在し、そのルート上にあるさかた海鮮市場は酒田市の新たな観光の拠点となっています。

毎日、新鮮な魚介類を仕入れしていますので、酒田にお越しの際には、ぜひお立ち寄りください。



さかた海鮮市場

住所：山形県酒田市船場町二丁目5番10号
開館時間：午前7時～午後7時
休館日：1月1日
交通：山形自動車道「酒田インター」又は「酒田みなとインター」から15分
市営るんるんバス「さかた海鮮市場前」下車
駐車場：普通車約300台（大型観光バスも可）
電話：1階 株式会社菅原鮮魚 0234-23-5522
海の八百屋 0234-26-7070
2階 食事処 海鮮どんや とびしま 0234-26-6111
問い合わせ：酒田市商工観光部商工港湾課 0234-24-8200

【編集・問い合わせ先】

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク事務局

国土交通省 東北地方整備局 港湾空港部 広報官 千葉忠樹

TEL 022-716-0001 FAX 022-716-0017

E-mail: chiba-t82ab@pa.thr.mlit.go.jp